

ラジオ放送における婦人向け番組について(1925～1931)

○大橋 きょう子

(昭和女大)

目的 情報化社会といわれる現在、婦人を対象とした放送番組は不可欠な存在となっている。今日のようにテレビ放送のなかった時代においては、電波を通じて情報を得ることが出来たのはラジオ放送のみであった。そこでラジオ放送が開始された大正14年当時のラジオ番組、中でも婦人を対象とした教育番組「家庭講座」に着目し、当時の放送内容の傾向と時代背景との関わりについて検討を行った。

方法 大正14年(1925)～昭和6年(1931)までの新聞(東京朝日新聞)、雑誌、およびラジオ放送に関する文献を資料として、「家庭講座」の講座内容を調べ、その内容を趣味・教養、育児・保育、保健・衛生、栄養、食品などの12項目に分類、整理し検索した。

結論 番組内容を、項目ごとに分類した結果、趣味・教養(27.6%)、育児・保健(18.5%)、保健・衛生(12.9%)に関する番組が多く取り上げられていた。中でも趣味・教養の講演は年を追うごとに多種多様になり、テキストを使うなどの工夫もなされた。多かつた背景には、①当時の婦人は、家庭において家族の生活を管理することが望ましい姿であると考えられていたこと。②女性教養の必要性が叫ばれ始めた時代において、ラジオの特性を活用して、家庭に居ながらにして「教養」を得ることが出来るという便利さが、広く一般の聴取者に受け入れられたことが挙げられる。